



STEP WORLD

TIMES

April 2010 No. 52

発行者
財団法人 日本ラーニング・ラボラトリー教育センター
東京都新宿区横寺町55 ☎ 03-3266-6251

<http://www.step-w.com>

「小学校英語」平成23年必修化……不安を抱いている保護者様

お子様に、いま必要なのは、「楽しさ」が「できる喜び」につながる英語教育なのです!

ただ楽しいだけの英語で、本当に英語は身につくのでしょうか?

楽しく英語に触れることはもちろん大切です。特に幼児や入門期の生徒には、英語を嫌いにならないための工夫、いろいろなゲームや楽しい活動が不可欠です。英語に触れば触れるほど、大人が驚くくらい「右脳」を通して音を吸収し、直感的に「正しい発音」を身につけていきます。

楽しい学習を継続し小学3年生くらいになると、楽しいだけでは物足りなくなります。そこで「右脳」から「左脳」を使って、論理的に物事をとらえた学習にシフトしていきます。今まで習ってきたことをベースに新しい文やフレーズを想像的に理解把握したり、ターゲット・センテンスという学習目標の文を、文法というルールにしたがって練習します。

会話の場面も覚えて練習したり、文字にも興味を持ちます。英語の音と文字の関係を体系立てて学ぶ「フォニックス学習」によって、音と文字双方の学習効率を飛躍的に上げていきます。

「英語塾や英会話教室に何年も通っていても英語の力が身につかない」とのこと、当校に転入してくる方も決して少なくありません。最初のうちは楽しくてよかった

右脳を利用した英語教育

- ・理論ではなく感覚・感情で学習
- ・歌、ゲーム、絵本、紙芝居、イベントを行うこと自体が目的
- ・ターゲット・センテンスはない場合が多い。実際の会話を聞かせていく。
- ・自然発生的な発話を待つ。

左脳を利用した英語教育

- ・言語脳、つまり左脳を使った教育
- ・ターゲット・センテンスがあり、その発話を促す。
- ・ゲームや歌は、ターゲット・センテンスを学習する手段と捉える。
- ・発見学習(場面からターゲット・センテンスの意味を想像していく)



のでしょう。でも、お子様の習熟レベルや年齢を考慮した英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」における適切なアプローチを行うことなく、ただ楽しいだけのお遊びの英語で終始してしまえば、お子様の学習効果は本当に表れにくいものとなります。

英語学習の成果のカギは? ①

それは、楽しみながらも「聞く」「話す」「読む」「書く」4つの技能に体系立てられ、

- お子様の年齢や習熟レベルに応じた「教材」、
- 日本の子どもたちが英語を習得するために、
- 理想的な手順・方法を示している「指導法」、

「指導法」や「教材」を駆使して、お子様の興味や学習効率を考えながら、日々の授業での指導や年間のプランを管理する「講師」

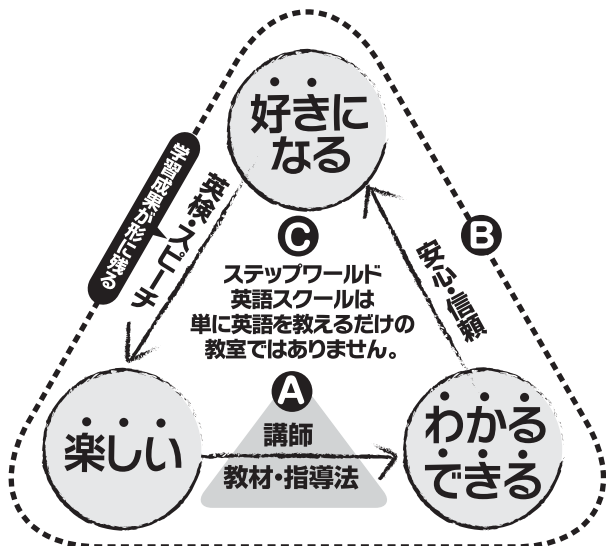
「教材」「指導法」「講師」が支えて、生徒のやる気は飛躍的に伸びていきます。

英語を通して、子どもたちは何を身につけていくの? ②

教室で英語を学んでいく過程で、子どもたちは、人の話を聞く力、自分のことを論理的に伝える力、他者への思いやりの心など、これからのお子様にとって最も強い武器となる「コミュニケーション力」を徐々に身につけていきます。

その力は、お子様が将来、国際社会で活躍するために必ず必要な力となり、どんな厳しい環境に置かれても未来を切り開く、生きる力になるはずで。

「英語大好き」って、いつまでもお子様に言ってもらえることが、私たちの大きな喜びにつながります。



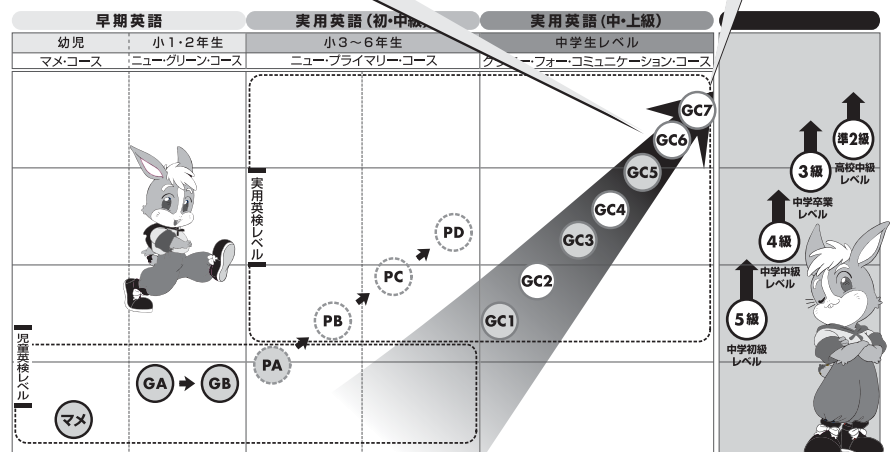
「楽しい」「わかる・できる」「好きになる」③

この三角形は、生徒のやる気を増幅するスパイラル。

英検やスピーチコンテストなどでの学習成果が形に表れることで、やる気はますます加速します。英検ではさらに次の級を、スピーチではもっと難しい課題に「チャレンジする心」がお子様に育っていくのがわかるはずで。

中3の段階までで約81%の生徒が3級(中学卒業レベル)を取得しています!!

小学校3・4年生から英語学習をスタートした場合、中3の段階までで約50%が準2級(高校中級レベル)を取得しています!!!



※上記コースの●マークは、新入生用の入門期コース、その他は経験者用の継続生コース
※小学校高学年生には、短期速習特別教材「PS」(プライマリー・スペシャル・コース)を開講する場合があります。